

つながる河北潟

かほくがた流域地図

NPO法人河北潟湖沼研究所

制作・発行：NPO法人河北潟湖沼研究所

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9

TEL 076-288-5803 / FAX 076-255-6941

E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

U R L http://kahokugata.sakura.ne.jp

2020年3月発行

写真と文：NPO法人河北潟湖沼研究所

イラストとデザイン：つじい ようすけ

2019年度地球環境基金の
助成を受けて制作しました。



多様な環境とつながる河北潟

河北潟は石川県で一番大きな湖です。金沢市、かほく市、津幡町、内灘町の2市2町にまたがっています。流域の最下流部に位置していて、東側には水田が広がり、西側は内灘砂丘で日本海と隔てられています。かつては大野川を通じて海水が入り、海水と淡水が混じる汽水湖でした。その頃はウナギやシジミがたくさんとれていました。しかし、1963年から始まった国営干拓事業により、当時の潟面積の約2/3が干拓されました。そして河北潟と大野川の間に防潮水門が設置され、現在は淡水湖となっています。人の手により大きくその姿が変わりましたが、それでも広い湖面と水生植物のある湖岸、周辺に水田をもつ河北潟は、野生生物にとって重要な場であり、人にとっても憩いの場や資源を得る場として、多様な恵みをもたらす可能性をもっています。

河北潟（かほくがた） 面積5.96km²
河北潟干拓地 面積13.56km²



河北潟流域

河北潟には、たくさんの川や水路が流れ込んでいます。川や水路の周りに降った雨は、やがて河北潟に流れてゆきます。また内灘砂丘でも、河北潟に面した側では、降った雨が河北潟に流れ込んでいきます。この水が河北潟に流れていく地域が、河北潟流域です。

河北潟に流れ込む川

- <かほく市> 宇ノ気川
 - <津幡町> 能瀬川、津幡川
 - <金沢市> 森下川、柳瀬川、柳橋川、血の川、金腐川、大宮川
- *この他にも小さな川や田んぼの水路が流れこんでいます。

上流 山間地 - 牧山町 -

上流域にある山間地には、山に降った雨が涵養され、いたるところに小さな水源があります。

森下川の上流にある牧山町は、山を背に美しい棚田がある場所です。集落の上にはため池があり、湿地にはセリやワサビが自生しています。飲み水としても利用できる清らかな湧き水を利用して農業が行われ、食べられる野草も多くあり、家庭料理に利用されています。

しかし近年、高齢化や過疎、それに伴う農業の担い手の不足から棚田をいかに保全するかという問題があります。



上流域の農地で農業や肥料の使用を減らすことは、下流の水質改善にもつながります。

地域の食材を生かす取り組み

牧山町では地元の方々「農事組合法人まっきやま」をたちあげ、農業を使わない持続可能な農業に取り組んでいます。そして地元の食材を使った食事処を作り、地域の自然と恵みを活かした取り組みを行っています。たくさんの人が牧山の自然に触れ、交流しながら、取り組みがすすまっています。こうした取り組みが広がることで、健全な農業が保たれ、暮らしがまもられ、下流の環境にもよい影響を与えます。

まっきやまの活動

- 地元ブランド米の無農薬栽培と直売
- 食事処まっきやま（予約制）
- ワンコインモーニング（4～11月、毎週火曜朝）
- SDGs ワークショップ 等



牧山の山菜や野菜等を、地元の方が作る昔ながらの料理で味わうことができます。

中流 里山と住宅地 - 夕日寺 -

中流域には人の暮らしに利用されてきた里山があり、ため池も多く、多様な野生生物が生息する場です。

金腐川の中流域にある夕日寺は、地名発祥から1300年以上がたつ歴史ある地域です。川のすぐそばに、古くからある集落と新しくできた団地とが混在している地域です。市街地と山間地の中間にあります。

最近では川が近くにありながら、身近なものではなくなっている、里山が利用されなくなり、竹林が荒廃するといった問題があります。



良好な里山は水を貯え水質を浄化します。ため池は流域の多様な生物を育みます。

地域の自然、歴史とつながる体験

夕日寺では、地元の方々夕日寺1300年協議会を作り、子どもたちを対象に、金腐川での環境学習イベント等を金沢星稷大学と連携して実施しています。金腐川の中に入り水生生物を観察したり、水質調査等を行ったりしながら、地元の自然や川に対する関心を高めています。地元の自然環境に関心を持つ人が増えることで、ゴミが減ったり、農薬の使用が減ったり、保全活動への参加が増えたりすることが期待されます。

夕日寺地域での活動

- 金腐川での環境学習イベント、伝統野菜・金沢伝燈寺里芋の復活
- 夕日寺健民自然園を拠点とした里山保全活動
- 竹林整備や竹材を活用した竹灯籠作りやおもちゃ作り
- ため池での外来種駆除 等



金腐川での環境学習会。川に降りられる場所がほとんどない昨今、子どもたちにとって貴重なイベントです。
写真：植田卓志 / 夕日寺1300年協議会

下流 湿地・河北潟

下流域の河北潟沿岸は、平野部に住宅地と水田が広がり、たくさんの水路が張り巡らされています。近年は水田が住宅地や商業施設に置き換わることも増えてきました。

河北潟のまわりの水田は、コハクチョウやシギ類等の餌場や休息場となっており、河北潟のヨシ原と広い湖面は水辺に生きる野生生物にとって大事な場です。

しかし水田では生物多様性が減少傾向である、水田では外来植物が繁茂する、流れてきたゴミが溜まるといった問題があります。



水路の状態や、水田での農業や肥料の使用状況は、河北潟の水質や生物に大きく影響します。

湿地の生物多様性をまもる活動

河北潟周辺の平野部では田んぼが重要な環境です。河北潟湖沼研究所では地域の農家と一緒に生きもの元気米に取り組み、できるだけ農薬を使わない農業を広め、水田の生物多様性保全に取り組んでいます。また田植えや稲刈り等の体験イベントも実施しています。その他「河北潟クリーン作戦」や、水辺の保全活動を様々な地域団体と共に行い、様々な角度から河北潟の自然環境への意識を高め、保全活動をすすめています。

河北潟周辺の活動

- 生きもの元気米、七豊米田んぼでの体験会（田植え5月、稲刈り9月）
- 水辺の外来植物除去活動（毎年11月）
- 河北潟クリーン作戦（毎年4月第3日曜）
- 河北潟自然再生まつり（毎年10月） 等



田んぼの生きもの調査も行って、地域の生物の情報を蓄積しています。調査結果から、保全活動の方針を決めます。



森下川の上流域



河北潟干拓地



河北潟クリーン作戦



河北潟自然再生まつり



トノサマガエル



コハクチョウの群れ

流域を守る活動への参加・応援をまっています

たくさんの川が流れこむ河北潟は、流域の自然環境の鏡です。流域が豊かになれば、自然豊かで美しい河北潟がうまれます。

河北潟湖沼研究所では河北潟流域全体が豊かになることを目指し、上流から下流まで連携した保全活動の展開を目指しています。山と潟の自然を楽しむイベント、農地体験、観察会など様々な活動を行っています。連携して流域での保全活動に取り組んでくださる方、応援してくださる方を待っています。

活動情報は下記サイトでご案内しています。

ホームページ

<http://kahokugata.sakura.ne.jp>

facebook

<https://www.facebook.com/kahokugatalake>



ホームページ



facebook

河北潟と川のつながりを調べてみよう！

かほくがた流域地図

河北潟には、たくさんの川や水路が流れこんでいます。河北潟のまわりには田んぼ、内灘砂丘、住宅地、市街地、森林、そして広い田畑や牧場のある河北潟干拓地等、多様な環境があります。山に降った雨、湧水、ため池、町中の川、農業用水路等の水が河北潟に集まってきて、大野川を通り、海へと流れていきます。河北潟はいろいろな場所と水の流れてつながり、かかわりあっています。

流域地図の範囲と方角



つながる場所、分断される場所

河北潟に流れ込む川や水路は、水門が多く、河北潟と区切られています。河北潟の水位が高いので、田んぼや住宅地の雨水をポンプでくみ上げ、河北潟に排水しています。水門によって区切られていることで、潟と沿岸の水田との連続性がなくなり、一部の魚類の産卵環境が失われています。

河北潟のまわりの山

河北潟に流入する河川の水源は、低山がほとんどです。津幡町から金沢市にかけて続く津幡・森本丘陵は、海成の泥岩や砂岩等の堆積岩からなり、標高200～300mほどの低い山が続きます。なだらかな地形で、山の上の方まで田んぼが見られます。森下川上流部にある医王山と、金鷹川上流部にある戸室山は、古くは火山でした。こちらは急峻な地形で、田んぼがある場所は限られています。河北潟流域で一番高い所は医王山で、標高900mほどです。



内灘砂丘

金沢市から内灘町を経て、かほく市までつながる日本で3番目に大きな砂丘です。内灘砂丘からは、砂丘地の表面を流れた水や、浸透水が河北潟に入ります。

湖岸のヨシ原

河北潟の水辺に広がるヨシ原は夏にツバメの集団ねぐらとなります。チュウヒやオオヨシキリ、様々な魚の大事な生息環境です。水をきれいに保つ働きもありますが、現在減少傾向にあり、保全が必要です。

河北潟放水路

干拓事業により、内灘砂丘を削って作られました。通常は防潮水門で閉じられています。河北潟の水位が海拔60cmを超え、かつ潮位より20cm以上高い場合にだけ水門が開かれ、放水されます。

大野川

河北潟から流れ出る唯一の川です。河北潟との間は金沢港防潮水門で区切られています。金沢港の整備にともない、河口は川幅が広げられて、水深も深くなりました。

流域地図の生きものたち【解説】

- ① ミサゴ 魚を捕って食べる鳥。河北潟で捕った魚を丘陵地にある巣で運び姿が見られます。
- ② チュウヒ 河北潟のヨシ原にすみ、周辺農地や湖岸でエサをとります。V字でゆったりと飛翔します。
- ③ オオヨシキリ 夏鳥としてやってきて、水辺に近いヨシ原の中で繁殖します。
- ④ カワセミ 小魚や水生昆虫等を食べる鳥。山間地から河北潟まで広く水辺に生息します。
- ⑤ ダイサギ 田んぼでよく見る大きな鳥。大きなくちばしでカエルや魚等をとって食べています。

- ⑥ ウグイ 上流から下流、汽水域まで生息できる魚。流れのある川に生息します。
- ⑦ カジカ 金沢ではゴリと呼ばれ、ゴリ料理として親しみのある魚。森下川や浅野川で見られます。水生昆虫や落下した昆虫を食べます。浅野川の上流域で見られます。
- ⑧ ヤマメ 中流から下流域に見られる魚。繁殖期には産卵のため田んぼや湖岸など浅瀬に来ますが、田んぼのかさ上げや乾田化で産卵できる場所が減っています。
- ⑨ ナマス どこにでもいると思われていますが、昔と比べるとその数は減っています。田んぼの水路の形が変わり、産卵場所となる水層が減ったこと等が原因として考えられます。

- ⑩ ニホンイトヨ 水草等で巣をつくる魚。かつては河北潟につながる水路に遡上する姿がたくさん見られましたが、今はまったく見られません。水路改修や水門による移動経路の分断、河北潟の水生生植物の衰退等が原因として考えられます。
- ⑪ トノサマガエル 平野から低山の田んぼや水辺に生息するカエル。田んぼでは昔と比べると鳴き声がだいぶ少なくなりました。
- ⑫ ハツタミズ 日本一長いミズ。金沢市八田町ではじめて見つかったため町名にちなんで名がつけられました。
- ⑬ クロサンショウウオ 里山にくらす小さなサンショウウオ。ため池等の山間地の流れのない水辺に産卵します。

- ⑭ ゲンジボタル かつては下流域の河北潟周辺の田んぼにも生息していましたが、水路のコンクリート化が進んだ今ではほとんど見られません。
- ⑮ アサザ 水面に黄色いきれいな花を咲かせる水生植物。水路改修工事や外来植物の繁茂により一時姿を消しましたが、河北潟周辺の水路では保全活動によりよみがえった場所もあります。
- ⑯ ミズアオイ 青紫色のきれいな花を咲かせる水生植物。かつては水田雑草として平野部に多い植物でしたが、今は少なくなりました。水路の浚渫等で突然発生することがあります。